

— 大分を、誇る家 —

ZEHビルダー普及実績および普及目標公表のお知らせ

府内町家(日本ハウジング株式会社)

府内町家は、大分の豊かな自然環境に寄り添い、心地よい暮らしを追求する注文住宅ブランドです。住み手のご家族に「心地よさ(=安心)」を、つくり手としてモノづくりに「こだわり(=責任)」を持つため、自然の力を引き出すパッシブ設計と高性能な「ZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)」の普及に注力しております。

国が定める「2050年カーボンニュートラル」に向け、2026年度(令和8年度)から2030年度(令和12年度)を対象期間とする「ZEHビルダー/プランナー登録制度(フェーズ3)」の継続登録を行いました。最新のZEH普及実績(2025年度実績)および2030年度に向けた普及目標を以下の通り公表いたします。

1. ZEHビルダー登録制度(フェーズ3)と当社の決意

政府は「2030年度以降に新築される住宅について、ZEH基準の省エネ性能の確保を目指す」という政策目標を掲げています。これに伴い開始された「フェーズ3」では、より実質的な普及活動が求められており、2030年度の目標設定においては「2025年度の実績から30ポイント以上の向上」または「90%以上の目標設定」が必須要件となりました。

当社は、大分の気候を読み解く「パッシブ設計」と大分県産の無垢材や湯布珪藻土による「自然素材の家」を掛け合わせた、独自のZEH住宅の普及を牽引してまいります。

2. ZEH普及実績および2030年度に向けた普及目標

フェーズ3の算定基準に基づき、2025年度までの実績、および2030年度(令和12年度)の普及目標を以下の通り策定・公表いたします。

区分・年度	ZEH普及目標(受託率)	ZEH普及実績(受託率)
平成28年度(2016年)	5%	6%
平成29年度(2017年)	20%	15%
平成30年度(2018年)	35%	20%
令和元年度(2019年)	50%	34%
令和2年度(2020年)	65%	42%
令和3年度(2021年)	50%	22%
令和4年度(2022年)	50%	43%
令和5年度(2023年)	50%	34%
令和6年度(2024年)	50%	36%
令和7年度(2025年)基準値	50%	39%(評価の起点実績)
令和12年度(2030年)普及目標	70%	(2025年度実績から31ポイント向上)

※フェーズ3目標要件である「2025年度実績(39%)から30ポイント以上の向上(計69%以上)」を満たす【70%】を目標に設定。

3. ZEH普及促進に向けた具体的な取り組み計画

① ZEHの周知・普及に向けた具体策

- 自社ホームページへの掲載やInstagramなどのSNSなどを通じ、自然素材の風合いとZEH基準の優れた断熱性能が両立する「心地よい家づくり」の価値を広く発信します。
- 「片島モデルハウス」や、実際の暮らしを体感できる「社長邸見学会（築12年）」等にて、高断熱仕様によるエアコンに頼りすぎない温熱環境をお客様に直にご体感いただきます。
- 社内で定期的に実施する技術セミナーや勉強会を通じ、省エネ・創エネの最新技術基準をスタッフ全員に周知徹底し、高度な提案能力と確実な施工品質を維持します。

② ZEHのコストダウンに向けた具体策

- 高断熱サッシや高効率設備、断熱材などの仕様機材を定期的に見直し、一括発注や安定的な仕入れ体制の構築によって、仕入れ原価の低減を進めます。
- 「床下断熱」や「充填断熱」など施工性の高い手法を標準化し、原価低減と工期短縮を同時に追求します。
- 設計段階から太陽光パネルの搭載を考慮し、最も発電効率がよく施工負荷の低いシンプルな屋根形状や配置計画を徹底することで、付帯工事費削減を目指します。

③ 健康や環境への配慮・その他の取り組み

- 優れた断熱性能（断熱等性能等級5以上）の確保により、冬季の部屋間の温度差を抑え、ヒートショック等からご家族の身を守る、健康的で安心・安全な生活空間を提供します。
- 「家と庭と家具を一体で計画する」府内町家の強みを活かし、断熱気密性能を高めた室内において「湯布珪藻土」や「大分県産杉床材」がもつ自然の調湿作用を発揮させ、呼吸から心地よい健康空気環境を創造します。

当社の登録状況、普及実績、全国のビルダー検索は、執行団体である一般社団法人 環境共創イニシアチブ（SII）の公式サイトよりご確認ください。

[「SII ZEHビルダー/プランナー一覧検索」はこちらから](#)